

天文学会の会費改定等について

会計理事から会費値上げ案等財政問題に対する御提案をしています。本年春季年会総会で会員諸氏に説明や議論を行ないました。また天文月報9月号403頁で会費や欧文研究報告掲載料などの値上案を提案しました。秋季年会臨時総会では財政状況についての説明等を行い値上案について議論していただきました。その資料をもとに、これまでの年会時の議論などをふまえて一部変更した理事会案を述べさせていただきます。表1に会費の改定案を示しました。これは特別会員学生会費の値上幅をこれまでに提案したものより縮小した案です。これらは94年1月に予定されている評議会で議論され決定される予定です。会員諸氏のご検討および、ご理解とご協力をお願いいたします。

1. 財政状況

図1に主なる事業(PASJ, 月報, 年会)の収支と管理費の推移を1985年から現在まで示しました。これらから明らかなように、会費は1987年と1991年に値上げされ

表1 天文学会会費の理事会案

会員種別	現在	新改定案
特別会員会費(一般)	16,000	18,000
同(学生)	12,000	13,000
通常会員会費	6,000	8,000

ています。管理費が1989-90年に大きく増加しているのは主にスライドセットの製作費です。これは図には現われませんが大きな収入増となりました。PASJは補助金および掲載料収入などにより、財政規模に比べ独立採算性の高いものです。しかし昨年度はA4版化に伴う掲載料の減収で収支が悪化しました。月報はこの間の改訂でやはり支出増になっています。年会については会場が大きな規模になりましたが、大学等公共機関の使用で支出がかえって押さえられています。管理費は人件費や諸物価の値上がりおよび学会の規模が膨らんできたことにより支出が増大しています。会員数は85年に比べ特別会員は600人から1.5倍に増えています。但し通常会員数は約1500人で横這いになっています。

1992年度の収支内訳を図2に示しています。これから管理費と月報の収支不足を全会員で負担すると仮定すると、会員の負担額は9600円となります。同じく、PASJと年会の収支不足を特別会員で負担すると仮定すると、これによる特別会員の負担は9800円となり、従って特別会員の負担額は合計19400円となります。なお以下の比較は1992年度(図2)を基に行ないます。これは1993年度が緊急財政的な措置を行なっていることと、1992年度実績を基に改善策を検討していることからです。

2. 今後の事業計画案

各事業について、今後数年程度の事業計画案を検討しました。その計画に基づいて今回の改定案を見ていただき、検討の参考にしていただきたいと思います。基本方

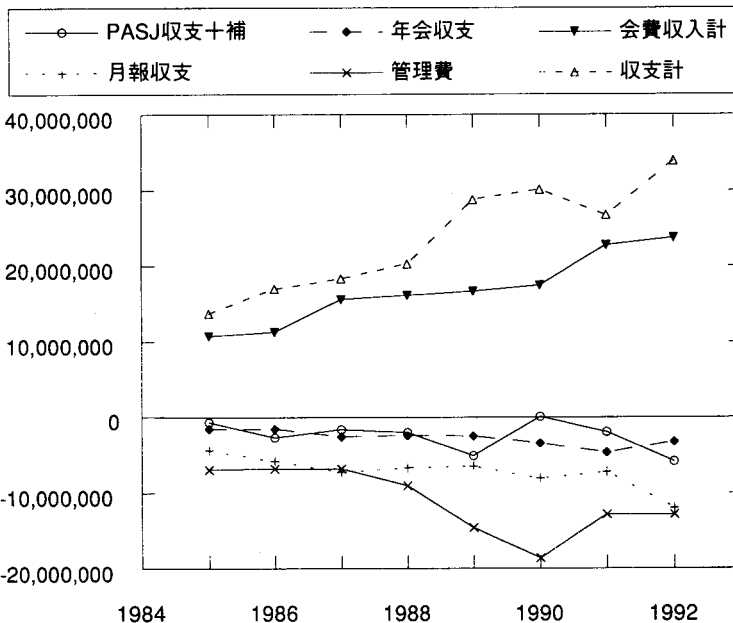
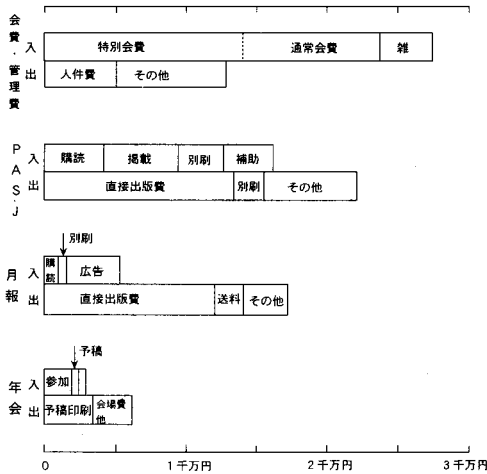


図1 主事業の収支状況の推移。収支が負なのは支出が収入より多いことを示しています。管理費は支出だけですがここに負の数として入れてあります。管理費と収支の合計が“収支計”として正の数として示され、会費収入と比較してあります。PASJは補助金を加えた収支です。



1992年度 収支内訳

図2 1992年度収支内訳。会費および印税等の収入と管理費を第1段に示し、2段目以降PASJ、月報、年会の収支を示します。

針は、それぞれの事業の独立採算性を高めるとともに、学術研究のために必要な事業経費については特別会員諸氏に負担をお願いする、というものです。同時に会員区分の検討などを定款改定を考慮して進めていきます。定款改定までは通常・特別会員の区分を明確にしていく方策を財政的にも考えています。またこの機会に運営全体を見直し、可能な合理化・近代化をはかりたいと考えています。会員諸氏のご検討をお願いすると共に、ご協力をお願い致します。

2.1 PASJ

9月号でお知らせしたようにA4判化にともなう財政的な対応をとります。年間1000頁のうち半分がTeX原稿であると仮定すると、掲載料と別刷代の増収は計200万円程度と予測されます。支出については合理化を進め、230万円の削減を計画しています。このうち約200万円は論文管理・校正等の作業を業者委託から学会側で行なうことにしたことによります。

現在著者から投稿されたTeX原稿はそのまま印刷するにはまだ不完全で、印刷所でTeXの修正を加えて最終稿としています。これを著者が完全にTeX化して最終稿を提出していただきますと、カメラレディー原稿として直接印刷費を1ページ当たり2000円程度削減することが出来ます。編集部では現在モニター制度を発足させて、投稿原稿の完全TeX化するにあたっての問題点を検討しています。

図2から上記の収支を考慮すると全体の収支のバランスは良くとれたものになります。しかし頁数が10%で増

表2 年会参加費等の理事会案

	予約	有り	無し
参加費			
一般会員		3,000	3,500
学生会員		1,500	1,800
その他*		—	4,000
予稿集頒布	1,800		2,000
講演登録料			
特別会員		0	0
通常会員		3,000	4,000
その他*		—	5,000

(*臨時総会提案より値下げ)

加し物価上昇率5%を仮定すると、支出増が年間200万円になり、見通しは厳しいものとなります。

直接出版費のうち印刷用紙や製本費等約10%が製作部数にほぼ比例する費用となっています。92年度の場合これは約130万円となります。現在1400部印刷しています。特別会費のうち、PASJの印刷部数を削減するだけ割り引くとすると、1部あたり1000円弱の割引になります。むしろ特別会員増をはかり印刷部数を増加させれば、印刷部数によらない基礎的経費が分散化され、特別会員1人あたりの会費負担が減少することが期待されます。

2.2 天文月報

今年度は緊縮財政でページ数を毎号44ページに押さえる努力をしていますが、既存の各企画を継続するのに大きな困難をきたしています。その後は少なくとも48ページにすることが必要です。92年度実績に比べこのための支出増約150万円に対し、広告料の増収を計画しています。理事長始め各理事が関連企業に広告掲載の依頼を行っており、100万円を目標にしています。

2.3 年会

表2のように参加費について会員と非会員に差を設けます。講演予稿集は一律有料とし、特別会員への無料配付は取りやめます。講演登録料を新設し、非会員で講演なさる方には年会開催のために必要な学会運営費の一部負担をしていただきます。また、講演者は基本的には特別会員である、という考えに基づいて通常会員と差をつけています。天文学研究者および研究者を目指す学生の方々は特別会員になっていただくよう呼び掛けます。

一方、年会自体の活性化をはかるため、年会実行委員会を新設して、研究奨励賞受賞講演、招待講演、企画セッションなどを設けることを検討しています。これらの時間はポスターセッションを充実していくことで確保しようと考えています。

表3 収支合計 (単位千円)

	収入増	支出増	収 支
会費	5,900		5,900
PASJ	2,000	-2,300	4,300
天文月報	2,400	1,500	900
年会	2,700		2,700
管理・運営		1,100	-1,100
合計	13,000	300	12,700

2.4 管理・運営

OA化を進めることにより人件費削減に努めますが、短期的にはOA化への投資費用が大きなものとなります。システム導入とそれにかかる人件費等、3年間で200万円程度が予測されます。導入に際しての人件費は大学院生などのアルバイトを期待しています。ぜひとも御協力ください。

2.5 会費納入に関して

図2にも明らかなように、会費収入は学会の収入の最も大きな部分を占めています。会費納入を円滑に進めるために、自動引き落とし制度を導入します。これにより会員諸氏の納入手続きの軽減を計ると共に、督促状送付手続きや負担の軽減および納入率の向上が期待されます。本制度利用者にはさらに表2の年会時の参加費等の予約による割引が利用可能となります。

3. 今後の財政見通し

2の事業計画と会費等の改定案により今後数年の財政事情の見通しを簡単に述べます(表3参照)。会費収入は92年実績から通常会員100人が特別会員に移行したとすると、590万円の増収になります。事業費の増収はその他約700万円が見込まれ、合計1300万円の増収になります。一方支出は30万円の増加が予測されます。92年度決算は600万円の支出超過であり、差し引き670万円の増収が期待されます。

しかし、6千万円の財政規模の本学会においては、700万円程度の増収では、物価上昇率が年3%あれば4年で物価上昇に追い越されます。さらに図1に明らかなようにこの間の経費の伸びは諸活動の活性化を反映して物価上昇率より大きくなっています。OA化による効率向上をはかるとともに会員増その他各種増収の検討をすすめていきたいと考えています。

天文月報海外速送サービス

海外在住会員の方々が天文月報を速く入手できるように、SAL便の取扱サービスを有料で行っております。ご希望の方は下記の要領にしたがってお申し込み下さい。

1. サービス料金：1年間2400円。年会費と併せて1年ごとに納入して下さい。
2. 申し込み：原則として年1回(4月期のみ)受け付けとします。締切前に学会へ届くように、送付先・氏名・会員番号を明記の上、書面でお申し込み下さい。書式は問いません。ただし、会費納入後に渡航が決まった方のための便宜措置として、10月期を設けます。4月期=1月31日までに次年度会費と併せて前納して下さい。10月期=7月31日までにサービス料金を前納して下さい(会費既納のこと)。[これは、年度途中で渡航が決まった方だけの経過措置サービスです。さらに継続を希望する場合は翌年の4月期に忘れずにお申し込み下さい。料金は1200円です。]
3. サービス期間：1年単位。4月号から発送します。10月期の場合は10月号から半年間発送します。4月期=4月号~次年3月号(例：1994年1月31日までに申し込んだ方は1994年3月20日発行の4月号~1995年2月20日発行の3月号)に適用します。10月期=10月号~次年3月号(例：1994年7月31日までに申し込んだ方は1994年9月20日発行の10月号~1995年2月20日発行の3月号)に適用。
4. 更 新：申し込み締切までにご連絡のない場合は、次期のサービスを打ち切り、船便とします。自動更新はいたしません。
5. 清 算：サービス期間途中で日本へ帰国するなどの理由でサービスを受ける必要がなくなった場合は、帰国後にお申し出になった時点で送料の清算をいたします。送付先が変更になった場合は至急ご連絡下さい。
6. 問い合わせ：ご不明な点は学会事務室までお問い合わせ下さい。(本誌奥付参照)。

- 注1. SAL便では、海外宛のパンフレット・書籍等は、日本から約2週間で送られます。
- 注2. SAL便が取り扱われていない国については、同一手続きで航空便でお送りします。(料金は異なります。)
- 注3. SAL便サービスの申し込みをされない方は従来どおり、送料学会負担で船便送付とします。

(天文月報編集委員会、会計理事)

人事公募

標準書式：なるべく、以下の項目にしたがってご投稿下さい。結果は必ずお知らせください。

1. 募集人員（ポスト・人数など）、2. (1)所属部門・所属講座、(2)勤務地、3. 専門分野、4. 職務内容・担当科目、5. (1)着任時期、(2)任期、6. 応募資格、7. 提出書類、8. 応募締切・受付期間、9. (1)提出先、(2)問い合わせ先、10. 応募上の注意、11. その他（待遇など）

東京都立大学理学部物理学教室教員

1. 助教授1名
2. 宇宙物理理論研究室
3. 宇宙物理学理論
5. 決定後できるだけ早い時期
6. 博士の学位を有する人
7. ○履歴書 ○業績リスト ○現在までの研究概要（2000字以内） ○研究計画（2000字以内） ○主要論文別刷（5編以内） ○推薦書または意見書1通（健康に関する所見を含む）
8. 1994年2月5日(土)必着
9. (1)〒192-03 東京都八王子市南大沢1-1
東京都立大学理学部物理学教室主任 小林信夫
電話 0426-77-1111 内線3362
(2)同教室 高原文郎
電話 0426-77-1111 内線3348
E-mail A910727@JPNTMU00.BITNET
10. 「宇宙物理理論助教授応募書類」と朱書き、書留で郵送のこと
11. 東京都の給与体系による

名古屋大学太陽地球環境研究所教員

1. 助手1名
2. (1)総合解析部門
3. テーマ：太陽地球系データの総合資料解析、太陽地球系現象のモデリングシミュレーション
このテーマに関連して、計算機／ネットワークの整備、運用、及びデータベースの構築に積極的に取り組んでいただける方を希望します。
全国共同利用研究所としての当研究所の任務を十分理解し、当該部門の研究に積極的な役割を果たす方を希望します。
5. (1)平成6年度のできるだけ早い時期
7. 履歴書、研究歴、業績リスト、主要論文別刷、研究計画書、並びに自薦の場合は本人について意見を述べられる方2人の氏名と連絡先、他薦の場合は2人からの推薦書

べられる方2人の氏名と連絡先、他薦の場合は2人からの推薦書

8. 平成6年1月25日(火)
9. (1), (2)〒442 愛知県豊川市穂ノ原3-13
名古屋大学太陽地球環境研究所
所長 國分 征
電話 05338-6-3154
Fax 05338-4-8806
11. 名古屋大学太陽地球環境研究所人事選考委員会の選考に基づき、同運営協議会の意見を求めて同教授会で決定します。なお、該当者がいない場合は決定を保留します。

名古屋大学太陽地球環境研究所教員

1. 教授または助教授1名
2. 太陽圏環境部門
3. 広い意味での太陽圏の研究。現在当研究部門では太陽中性子の観測、宇宙線変動観測、宇宙ガンマ線の研究、太陽風の観測、シミュレーションによる太陽圏の研究を行っています。今回の公募では、それらを広く発展させる太陽圏の研究を推進していただける方を希望します。教授の場合はこの分野に新しい観点を導入し、研究分野の発展に貢献していただける方を、助教授の場合は、当面研究室の研究に参加すると共に今後の計画推進についてもソフト、ハードの両面で積極的な役割をしていただける方（いずれの場合も大学院学生の教育に熱心な方であることを希望します。
全国共同利用研究所としての当研究所の任務を十分理解し、当該部門の研究に積極的な役割を果たす方を希望します。
5. 平成6年度のできるだけ早い時期
7. 履歴書、研究歴、業績リスト、主要論文別刷、研究計画書、並びに自薦の場合は本人について意見を述べられる方2人の氏名と連絡先、他薦の場合は2人からの推薦書
8. 平成6年1月25日(火)
9. (1), (2)〒442 愛知県豊川市穂ノ原3-13
名古屋大学太陽地球環境研究所
所長 國分 征
電話 05338-6-3154
Fax 05338-4-8806
11. 名古屋大学太陽地球環境研究所人事選考委員会の選考に基づき、同運営協議会の意見を求めて同教授会で決定します。なお、該当者がいない場合は決定を保留します。

人事公募結果報告

1. 公募記事題目：宇宙科学企画情報解析センター
2. 会誌掲載号：1993年8月号
3. 結果： 教授 助教授
氏名 長瀬文昭 星野真弘
前所属 宇宙科学研 理化学研
4. 着任時期：1993年10月
5. 連絡責任者：西田篤弘
連絡先 〒229 神奈川県相模原市由野台3-1-1
宇宙科学研究所

人事公募結果報告

- 1 公募記事題目 国立天文台岡山天体物理観測所助手
- 2 会誌掲載号 1993年4月号
- 3 結果 氏名 吉田 道利
前所属 国立天文台研究員
- 5 連絡責任者 佐藤 修二
連絡先 名古屋大学理学部

1994年度彗星会議開催のお知らせ

日 時：1994年3月26日(土)～27日(日)
場 所：仙台市青葉区大町2-12-1
仙台市戦災復興記念館
会 費：参加費 3,500円(予定)
懇親会費 6,000円(予定)
宿 所：会場近くのワシントンホテル、シングル100室
予約しました。(費用：税・サービス込み 7500円)
申し込み順となりますので、お早めに。
なお、元国立天文台 香西洋樹さんの講演も予定してあります。

参加申込方法

返信用封筒に住所、氏名を記入の上62円切手を貼り下記まで申し込み下さい。

折り返し詳しい案内状、申し込み用紙を返送いたします。

返送開始は1994年1月予定。

締め切りは1994年2月15日(火)とします。

なお、ハガキ、電話、コンピューター通信による問い合わせ、申し込みはご遠慮下さい。

申込先：〒980 仙台市青葉区桜ヶ岡公園1-1
仙台市天文台気付
1994年 彗星会議実行委員会
(代表：笠原 紳)

1994年地球惑星科学関連学会

地球惑星科学関連学会は、次のとおり、合同大会を開催いたします。

日時：1994年3月20日(日)～23日(水)

会場：東北大学川内北キャンパス講義棟

特別講演：3月22日(火) 13:00～15:00, 仙台国際センターにて

東北大学 西沢潤一総長

東北大学 鳥羽良明教授(海の風波 副題 この不思議なもの)

各学会総会：3月22日(火) 16:00～17:30

懇親会：3月22日(火) 18:00～20:00, 川内北キャンパス厚生会館食堂にて

セッション：合同大会は、固有セッション(参加する個々の学会が独自に組織)、共通セッション(複数の学会が共同で組織)およびシンポジウム(招待講演による)からなります。セッション参加学会は、日本地震学会、日本火山学会、日本測地学会、日本地球化学会、日本惑星科学会、日本岩石鉱物鉱床学会、地球電磁気・地球惑星圏学会であり、シンポジウム共催学会は、日本天文学会のほかに、日本地質学会、資源地質学会、日本海洋学会、日本気象学会、日本鉱物学会です。日本天文学会は、この合同大会において以下のシンポジウムを共催いたします。

3月21日(月) 午前 シンポジウム 太陽・太陽風・磁気圏結合系のダイナミクス

連絡先：渡辺 堯(茨城大：Tel. 0292-26-1621 Ex.729)

3月21日(月) 午後 シンポジウム 惑星探査

連絡先：森岡 昭(東北大：Tel. 022-222-1800 Ex.3347)

3月21日(月) 午後 シンポジウム 彗星と木星との衝突現象

連絡先：渡部潤一(国立天文台：Tel. 0422-34-3600)

これらのシンポジウムに興味をお持ちの方は連絡先に至急お問い合わせ願います。なお、合同大会全般に関するお問い合わせは下記にお願いいたします。

1994年合同大会実行委員会事務局 吉田武義

(東北大理学部、基礎地学)

Tel.022-222-1800

Ex.5327, Fax.022-263-9279)

1994年国際天文学連合 (IAU) 総会 (22回; オランダ) に関して

IAU 総会に関連して日本学術会議の天文学研究連絡委員会 (天文研連) が行なうべき各種推薦について天文月報 1993年10月号に続いてお知らせします。推薦は(1)新メンバーの推薦, (2)非会員が総会に出席するのに必要な推薦状の申請(3)若い天文学者に対する総会出席の旅費援助の推薦の三種があります。現時点ではいずれの申込用紙も国内委員会である天文研連に届いておりません。天文研連開催期日との関連で, (1)についてはとりあえず前回の申込用紙を使って募集し, 11月5日の研連で推薦候補者を決定しました。この募集の締切通知は電子メールで行ないました。電子メールの情報が届かなかった方で追加の希望があれば天文研連幹事にご相談下さい。(2)と(3)については3月4日の天文研連で推薦を決定する予定です。希望者はあらかじめ幹事に申込用紙の送付先を文書で知らせておいて下さい。申込用紙が届き次第お送りしますので, 必要事項を記入して2月25日(金)必着で幹事までお申し込み下さい。(2)については2月25日以降でも追加できる可能性があります。

1993年11月8日

杉本大一郎 (天文研連委員長)

連絡先 岡村定矩 (天文研連幹事)

〒113 東京都文京区弥生 2-11-16

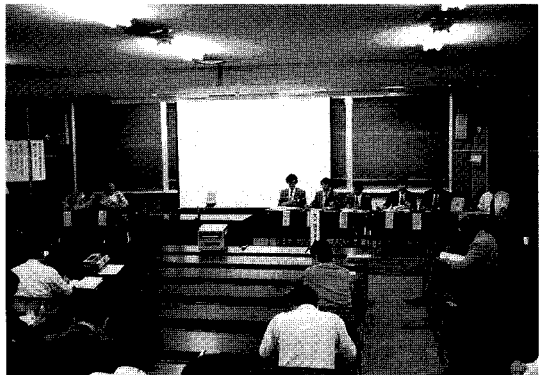
東京大学理学部天文学教室

Tel.: 03-5800-6880

E-mail: okamura@apsun1.astron.s.u.tokyo.ac.jp

天文教育フォーラム 「公共天文台を考える」報告

鹿児島大学で開催された日本天文学会秋季年会の第1日目, 10月13日午後5時30分より天文教育フォーラム「公共天文台を考える」が天文教育研究会と日本天文学会の共催で開かれた。急速に増えつつある公共天文台であるが, 天文教育にどう関わっているのか, またどう関わっていくべきなのか, さらに天文学の進歩のためにいささかの貢献をするにはどうすればよいのか, などを議論することを主な目的とした。鹿児島大学教授の森本雅樹氏の基調講演「宇宙と天文台, 人間の三角関係」では, 公共天文台を核にして, 天文学の楽しさ, 有意性を打ち出していくことの必要性が強調された。続いて, 公共天文台に携わっている美星天文台の綾仁一哉氏, 国立科学博物館の西城恵一氏, 枚方市野外活動センターの西村一洋氏, それに利用者側代表として鹿児島天文協会の永正重俊氏, 前田利久氏の五氏をパネリストとし, 兵庫県立



西はりま天文台の黒田武彦がコーディネーターとなってパネルディスカッションが行われた。森本雅樹氏と国立天文台の磯部瑠三氏にはコメントーターをお願いした。強調されたのは, ホンモノを見る機会を増やすことの重要性, アマチュアの利用しやすい運営を考えることの必要性, 研究活動にも生かす工夫の大切さなどであった。議論が佳境に入りかけた際に時間切れとなったが, 約50名の参加者も熱心に討議に参加し, この分野にかけられている期待の大きさが伺えた。(黒田武彦記)

第3回「一般相対論と重力」研究会

日時: 1994年1月17日(月)~20日(木)

場所: 東京大学山上会館 (文京区本郷7-3-1)

内容: 一般相対論の基礎に関する問題を総合的に考察。相対論的天体物理学, 宇宙論, 広い意味の重力理論を含む。

申込〆切: 1993年12月17日(金)

世話人: 石原秀樹 (京大教養), 江里口良治 (東大教養), 小嶋康史 (都立大理), 二間瀬敏史 (弘前大理), 前田恵一 (早大理工), 山田章一 (東大理)

連絡先: 〒169-50 新宿区大久保3-4-1,

早稲田大学理工学部, 物理学科, 前田恵一
電話 (03) 3203-4141 内線 73-3657

Fax (03) 3205-4839

E-mail: maeda@cfi.waseda.ac.jp

PASJだより

平成5年10月の理事会での承認にもとづき、欧文研究報告の掲載料および別刷代が1994年以降の投稿論文より以下のように値上げになります。

掲載料：4,500 p (p：頁数) (注1)

6,000 p (注2)

別刷代：20 np (n：別刷部数)

注1：第一著者が特別会員で、かつTex原稿の場合

注2：注1の場合以外

銀行引き落としのための登録について

1994年度の会費および春季年会に関する「銀行自動引き落とし」は2月21日(月)締切りとさせていただきますので、ご希望の方は日本天文学会まで登録用紙の請求をして下さい。折り返し用紙をお届けします。引き落とし金額は次号でご案内します。

星空市場

『ください』

この度、筑波大学で新しい宇宙物理研究室を作るに当り、以下の雑誌のバックナンバーを譲って頂ける方を探しています。また、天文・宇宙関係の書籍もありましたら歓迎です。(書籍の値段は交渉にて。)

送料等は当方で全て負担致しますので、譲って頂ける雑誌、書籍がありましたら、連絡を頂ければ幸いです。

Ann. Rev. Astron. Astrophys.

Astron. Astrophys.

Astronomical J.

Astrophys. J. & Letters & Supplement

Astrophys. Space Sci.

Monthly Notices Roy. Astron. Soc.

Proceedings of IAU Symposium

Publ. Astron. Soc. Japan (1984年以前のもの)

Soviet Astron.

<連絡先> 梅村雅之

〒305 茨城県つくば市天王台1-1-1

筑波大学 物理学系

TEL：0298-53-4033

FAX：0298-53-4492

E-mail：umemura@ume.mtk.nao.ac.jp

umemura@ph.tsukuba.ac.jp

編集部より

天文月報投稿のご案内

天文月報では、皆様からの原稿を募集しております。日頃の研究の成果、研究の提案、学会への意見、学界への提言などふるってご投稿下さい。毎月15日が締切です(掲載号を指定する場合は発行日2カ月前の15日までにお願ひします)。詳しい投稿規定は別紙を用意しておりますので、項目を明記の上「天文月報」編集部までご請求下さい。項目とその内容につきましては、1993年4月号182ページ、5月号234ページをごらん下さい。

編集委員 谷川清隆 (編集長), 坂尾太郎, 田代 信, 中川貴雄, 中村 士, 濱部 勝, 林 左絵子, 半田利弘
平成5年12月20日 発行人 〒181 東京都三鷹市大沢2-21-1国立天文台内 社団法人 日本天文学会
印刷発行 印刷所 〒162 東京都新宿区早稲田鶴巻町565-12 啓文堂松本印刷
定価700円(本体680円) 発行所 〒181 東京都三鷹市大沢2-21-1国立天文台内 社団法人 日本天文学会
電話 (0422)31-1359 (FAX自動切換) 振替口座 東京 6-13595